

路を經由せり。清廷西域を平定するに及び、遂に漢隋の南道即ち沙磧路を廢し、今の南北兩道と爲せり。

新疆の道路は山路及卑濕地を除くの外、比較的好良なれども、河川に橋梁の設備少なく、今尙ほ舊式の舟渡を以て唯一の交通機關と爲しつゝ在り。故に南北路并に主要の道路を改修し、河川には橋梁を設け、濕地には排水溝を作り、坂路には開鑿を施し、並木の増植、官店(カガロシに倣ふを可とす)の改良を企圖せざるべからず。殊に伊犁の後路たる那喇特山道を改修して車道とし、同時に喀喇沙爾、烏魯木齊間の山路及伊犁、精河間の捷路を同一様に改築するを急務とす。要するに伊犁と南北路との交通を便にする必要を認むればなり。

第二節 驛傳

公用を辨ずる爲め、省城(烏魯木齊)より各地方官衙所存地に至る間には、必らず驛傳の設置あり。即ち概ね七里乃至十里毎に一箇の驛を置く、之を通常馬驛(マホウ)と稱す。

一馬驛子には一人の書記と、四騎の驛夫あるも、馬驛子は甚だ閑散なり。故に平生

改修の必要

馬驛子